

たけさと ちめい
武里の地名(上)

武里地域は、古代は海であったようである。

考古時代については今後発刊される「春日部市史[※]」第一巻考古資料編によらなければ詳細は判明しないが、学者(中川徳治：備後在住)の説によると、海の後退によって開けた場所で、この地域は当時の海退により生じた利根川(現古利根川)荒川(現元荒川)の古い流路の中に存在した湿地帯であつたらしい。

最近であるが、東急ニュータウンの建設された際、地下数メートルのところから有楽町と呼ばれている地層が発見され、貝(カキ等)の化石が発見されていることから、この地が太古は海であつたことをうかがい知ることができる。

中世になってからも、この地域は低湿地帯が多く、未開の地であつた。ますだしんでん増田新田・一の割・すすきや薄谷・大場等は谷原沼または大場沼という沼地であつたようであるが、備後須賀稻荷大明神の由緒に春日部治部云とあり、現在の丘のような地域が島として存在していたようである。そのほとんどが砂丘層であつた。

また、利根川の自然堤防付近は中世にはある程度開発されていた。中世の後期には備後村・大畑村・大枝村・大場村・中野村は内出郷・太田庄新方領と呼ばれていたようだが、古時のことで明らかではないが天正年中より徳川氏の領地であつた。

近世になって検地が行なわれ、幕府直轄（天領）区域と岩槻藩領・旗本知行地が定まった。天領には備後村の一部と大畑・大枝・大場・中野・市野割の各村。岩槻藩領には、増田新田・薄谷村。知行地は、備後村を正木・森川・戸田・高木の四知行にあたえられて統治された。

明治初期、廃藩置県の制により岩槻藩領は岩槻藩↓岩槻県↓浦和県↓埼玉県となる。天領と知行地は大宮県↓浦和県↓埼玉県となった。

明治十七年に、聯合戸長制度が定められて、区域内八カ村は聯合し備後村に聯合戸長役場（森泉安兵衛宅…現存）を設置した。

明治二十二年町村制の施行により、八カ村を合併して一村を設置することになった。村の名称は住民の協議によって定められたが、古典あるいは由緒ある名称ではなく、武里村と命名された。古老の語り伝えによると、「武蔵野の里」の意であつて、武蔵国の「武」と里で綴つたものである、という。武里村の誕生により、各村はそれぞれ大字名となった。

昭和二十九年七月一日町村合併によって春日部市となり、武里の地名は地区名として利用されるようになった。

この地域では、農民生活共同体として、つぎの村落名が使用された。

▽大場…沖・下・中・新田・谷中

▽備後…上・中・下・須賀の各組

▽市野割：みみよう・堂免

▽増田新田：大場沼・京ノ割・もの割

他の区域は一村名で村落名は付されていない。

初出 「広報かすかべ 昭和五十四年四月」 かすかべの歴史余話

※1 昭和六十三年に発行。